

# 相談室だより くらさき苑 2017年3月

担当：くらさき苑 支援相談員 小出 圭一

寒暖の差があり体調を壊しやすい日々ではありますが、皆様方お変わりなくお過ごしでしょうか？桜も蕾を膨らませ、そろそろ花見の季節となります。

みなさん、はじめまして。2016年9月より、くらさき苑 支援相談員として着任いたしました、こいで です。着任し、早いもので半年が過ぎました。相談員として慣れない中、米の山病院・みさき病院MSWの優しい先輩方のご指導や支えがあり、なんとかこれまで頑張ることができました。無我夢中の半年間ではありましたが、たくさんのご家族（相談者）とお話する中で、介護とお金の問題は切実なことであり1番の現実的問題だと感じました。今回は、親の介護が原因で起こってしまった悲しい殺人事件を紹介したいと思います。

2006年2月1日 京都市の遊歩道で無職（当時54歳 息子）が認知症の母親（86歳）の首を絞めて殺害、自身も死のうとしたが未遂に終わった事件です。

母親の認知症は2005年4月頃から悪化し、おにぎりの包み紙を食べたり、「キツネがいる」と言って天井を叩いたりしていた。真夜中に外出しようとしたり、息子が仕事に行っているあいだに徘徊して警察に保護されたりしたことも2度あった。昼夜逆転の生活になっているため、母親は真夜中の15分おきに起き出し、息子も疲れ始めていた。

そんなことがあってか、夏ごろには介護保険を申請し、アパート近くの施設でデイケアサービスを受け始めたが、昼夜逆転の生活は戻らなかった。息子は献身的に介護し、7月には仕事を休職している。

9月頃、工場勤めをしながらの介護に限界を感じた息子は仕事を辞め、自宅で介護しながらできる仕事を探したがみつからなかった。12月には失業保険の給付もストップしている。区役所にもすでに3度相談していたが良いアドバイスは得られなかった。

「生活が持ち直せるしばらくの間だけでも生活保護を受給できないか」と相談したこともあったが「あなたはまだ働けるから」と断られている。

同じ頃、カードローンの借入も限度額になった。生活費に窮するようになった息子は、自分の食事を2日に1回にし、母親の食事を優先した。

2006年1月31日、この日までに払わなくてはいけないアパートの家賃3万円はどこにもなかった。手持ちの現金はわずか7000円ほど。息子は親族に相談することもなく、自分たちに残された道は「死ぬこと」しかないと思った。

息子は自宅アパートをきれいに掃除して、親族と大家宛の遺書と印鑑をテーブルの上に置いた。その間、息子は母親に「明日で終わりなんやで」と話しかけている。

最後の食事はコンビニで買ってきたパンとジュース。電気のブレーカーを落とすと、息子はリュックサックに死ぬためのロープ、出刃包丁、折りたたみナイフを詰めて、車椅子の母と2人アパートを出た。

夜、母子は、もう戻ることのできないアパートの近くの河川敷にいた。次はどこへいきたいかと聞かれて、母親が「家の近くがええな」と言ったからである。午後10時のことだった。

2月1日。厳しい冷え込み。息子は車椅子の母に防寒具をかけてやった。それから何時間か過ぎた。

「もうお金もない。もう生きられへんのやで。これで終わりやで」

息子は目を覚ましたばかりの母に語りかけた。母親は「すまん」「ごめんよ」と泣きじゃくる息子の頭を撫で、「泣かなくていい」と言った。

「そうか、もうあかんか。一緒やで。お前と一緒にやで」「こっちこい。こっちこい」母に呼ばれた息子が近づいたところ、額がぶつかった。

「お前はわしの子や。わしの子やで。(お前が死ねないのなら)わしがやったる」

その母親の言葉に息子は「自分がやらなければ・・・」と思った。

そして意を決し、車椅子のうしろにまわってタオルで母親の首を絞めた。絞め続けた後、苦しませたくないために首をナイフで切った。

息子は遺体に毛布をかけた後、包丁とナイフで自分の首、腕、腹を切りつけ、近くにあったクスノキの枝にロープをかけ首をつろうとしたが失敗した。

「土に帰りたい」と走り書きしたノートの入ったリュックサックを抱いて、冷たい雨の降るなか虚ろな表情で佇んでいた。

通行人によって2人が発見されるのは午前8時頃のことである。

いかがでしたか？今は遠い事と思っても親の介護に関わる事は、誰にでも訪れる身近な問題です。親の介護が必要な状態になってからお亡くなりになるまでは、平均して600万円程度、介護費用がかかります。介護には時間も人もお金もかかるのです。

自分の生活でさえやっとなんて・・・という人も多い世の中。介護にかかる費用600万！！びっくりですよ・・・

一人で背負い込むのではなく、社会資源や保障を活用しましょう。近くの地域包括センターや私達に相談して下さい。一緒に考えましょう。身近な相談室として力になりたいと思っています。

ご精読ありがとうございました。4月号に続きます！！